



子どもを育てる目 (3)

・・・人を敬う心を育てる目・・・

子どもたちには、みんなの目標としてチャレンジと国語力を伝えています。1年生の担任が日記を見せてくれました。

きょう、あさきゅうけいにたけうまをやりました。

いつもだとできるようにになりたいとおもっていました。でも、きょうは、いつもいじょうにさむく、さむいとしかかんじずにやっていると、こうちょうせんせいがきました。わたしは、はずかしかったのですが、こうちょうせんせいに、「まえをもってくれませんか。」といいました。こうちょうせんせいは、やさしく、いいですよとおっしゃいました。そのとき、あさきゅうけいのおわりらへんかしりませんが、さむさがきえたきがしました。

こうちょうせんせいの手を見ると、ほとんどもっていなかったなので、つぎは、のるところに付けてつだってもらいました。もしかしたら、まえに人がいたらあんしんするのかなと二人でにっこりわらいました。

入学したときからおもいました。こうちょうせんせいはえらそうなたいどもとりません。いそがしくて人のチャレンジを見のがさない、まるで、こうちょうせんせいは、やさしいおともだちのようです。

うんどうかいでこうちょうせんせいがいっていた、フェアプレーや人をうやまうところになって、こうちょうせんせいを見ならって、がっこうせいかつをすごしたいとおもいます。

子どもは、竹馬に乗れるようにとチャレンジしています。寒いからやめるのではなく、頭の中は寒さでいっぱいだけれどそれでもやっています。休憩時間だからやめることもできるのに上手になりたいからひたすら竹馬をしているのです。人にやらされるのはチャレンジではありません。自分から考えてやり抜くのがチャレンジです。

国語力も見て取れます。ていねいなことばを使っているところです。人を敬う心がていねいなことばから伝わってきます。日記のまとめのところに「校長先生は、優しいお友達のようにです」と書いているくらいですから、きっとこのクラスの友だちは優しいことばを使ってチャレンジする人を応援し励まし合っているのだと思います。このクラスだけではありません。英語のスピーチにしてもマラソン大会にしても入賞者を発表するときに、実力を上げるためには人一倍の努力がいると子どもは分かっているのです。敬う心からのあたたかいことばがどの学年でも聞かれます。

人を敬うことは、成長の大きなエネルギーになります。親や教師という目指す人物像が身近にいることは、生きるお手本です。クラスの友達や上級生に憧れる人がいることは、学ぶお手本になります。憧れや目指す人物像をつくる始まりが人への敬意です。私たち大人の、人を敬う心を育てる目は大事です。